くすの木

小林市立小林小学校　　校長通信
令和５年９月 ５日　　第４２号　（文責　校長　吉井秀一）
TEL:（0984）23-3510　E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

夏休みを終えて、子どもたちの声が学校に帰ってきました。福岡県では夏休み開始早々に複数の６年生が水の事故で亡くなるなど痛ましい事故がありましたが、本校では大きな事故やけがの報告もなく、無事に過ごしてくれたようです。家庭でのご指導に感謝いたします。

一方、今年の夏は、お盆前後に大型台風が接近し、帰省や行楽にも大きな影響を与えました。中には住宅や田畑に被害を受けられた地域もあるようです。一日も早い復興をお祈りいたします。

既にお知らせしましたように、今年は全校による運動会を目指して練習を始めました。４年ぶりとなると、もう学校としては「初めて」と同じです。みんな戸惑いもありますが、思い出に残る運動会になるよう子どもたちとともに頑張ります。

思いが響きあうとき

夏休み明けの集会。子どもたちに４つの話をしました。２つは悲しいお話、２つはうれしいお話です。

悲しいお話の一つは夏休み中の小学生の事故を振り返り、命の大切さについて話しました。うれしいお話の一つは、みんなが安全に夏休みを過ごしてくれたこと。では、残りの２つについて紹介します。

まず、うれしいお話から。以前紹介させていただいたかと思いますが、細野にあります（株）「ミヤザキ」様から西諸の全小中学校に多額の寄付をいただきました。「学校の意向を大切にしたい。」との山之上社長の意向で、学校ごとに希望を出しました。その品物が夏休み期間中に一部届き始めたのです。本校からは、各教室に大型モニターを導入しました。今まで以上に鮮明な映像で学習できます。

また、体育館のステージ後ろの壁の修復も完了し、体育館が明るくなりました。そのほか野外休息スペース（ベンチ）を新設、休み時間用の一輪車も購入しました。（裏面参照）

「子どもたちのために」という思いをしっかり受け止めて、大切に使わせていただきたいと思います。これが、うれしいお話の２つめでした。

さて、悲しいお話が一つ残りました。それは私が学校で見つけたペットボトルのお話です。誰かがポイ捨てしたのではないかと思われるゴミ。このような行為は悲しい出来事だとみんなで受け止めました。同時に、用務員の切畑先生がいつも運動場のゴミを拾ってくださっていることも紹介しました。ゴミの少ない学校だと思っていたのですが、既にみんなのために行動されている先生がおられるのです。

この話をした次の週の月曜日、体育を終えて教室に入ろうとする高学年の男の子が、外に出ていた私を呼び止めました。「校長先生、これ、落ちてました。」手には２つのお菓子の袋が握られています。私はお礼を言いながらゴミを受け取りました。

ゴミを自ら拾ってくれたこと。私の話をちゃんと聞いてくれていたこと。そして、「みんなできれいな学校をつくる。」という意味を理解してくれたこと・・・。私は重なる思いの分「ありがとう。」を繰り返していました。

『みんなで考え、みんなでつくる、みんなの小林小学校』

今年掲げたスローガン。だれもが学校のためにできることを考え、その思いが響き合うとき、それは目に見える形となって実現していきます。

悲しい話も思いを行動に変えた先生や子どものおかげでうれしいお話になりました。

十分な睡眠と食事を　本校の熱中症への対応につきましては、先日プリントでお知らせしたとおりですが、他県では熱中症の影響が考えられる死亡事例もあります。夜更かしによる睡眠不足や、休日のスポーツ活動による休養不足とならないよう十分な注意をお願いします。

（株）ミヤザキ様からの寄贈品　一部紹介

大型モニター（各教室）

壁張替え（体育館）

休息用ベンチ（野外）

ノーパンク一輪車（10台）

「みんなで考え　みんなでつくる　みんなの小林小学校！」